

1. 入試は5教科のテスト + 調査書の得点

近隣他県との決定的な違いは

「調査書が点数化され、計算式が公表されている」という点！

下の例は埼玉県東南部の雄、越谷北高校の選抜基準。

選抜資料						
○学力検査の扱い					[500点]
○調査書の扱い	学習の記録の得点	1年	2年	3年	(1 : 1 : 2)	(180点)
	特別活動等の記録の得点				(70点)
	その他の項目の得点				(20点)
○その他の資料	なし					

まず理解したいのは「学習の記録」いわゆる「通知票9科合計」の得点。

通知票は5段階評価なので、満点は 5×9 教科 = 45

中1 : 中2 : 中3 = 1 : 1 : 2なので

$45 + 45 + 90 = 180$ 点となっている。

つまり、通知票合計27（オール3）の生徒と

通知票合計36（オール4）の生徒が同じ高校をうけようとする



テストを受ける前から **36** 点も得点差がある！

逆転するのはかなり厳しくなってしまう！

これが「積み重ね」の恐ろしさ！！(;・∀・)

2. 調査書の得点は通知票だけじゃない！

特別活動の記録とは部活、生徒会のこと。その他の項目とは英検等の検定もの。

この項目の特徴は、特別活動の記録・その他の項目の得点は「グレー」であるということ。
その年の受検者層によって、与えられる得点幅が変えられてしまうということだ。

例えば、部活動で県大会出場以上の実績をもっている受検者が少なければ加点を多くもらえるし、
県大会出場以上の受検者が多ければ加点は少なくなる。検定に関しても同様のことが起こる。
よって、得点が計算できない以上、過敏になる必要は無い。

しかし、加点幅が大きい高校があることも事実なので（部活等での逆転が多数発生している）
当塾では塾生の面談等でお伝えしている。

下記は越谷北高校の例。高校によってかなり違いがある。志望校に関してはきちんと調べておくべき情報。

【特別活動等の記録の得点（70点）】

○学級活動・生徒会活動・学校行事について

以下の区分により得点を加算する。

- ・区分A 学級活動における顕著な取り組み
- ・区分B 生徒会活動における顕著な取り組み
- ・区分C 学校行事における顕著な取り組み

○部活動等

以下により得点を加算する。

- ・実績（大会・コンクールへの出場・出展、ただし団体種目においては登録メンバーについては加算する）
 - ・部長、副部長などの役員
 - ・選抜選手等
- 調査書の「5その他」欄に記載された活動のうち、運動部・文化部に準じて評価できるもの
以下の活動で特に顕著な実績がある場合に得点を与える。
- ・スポーツ活動や文化活動等
 - ・公的機関主催の国際交流活動

【その他の項目の得点（20点）】

○資格取得

英検準2級以上・数検準2級以上・漢検準2級以上

○総合的な学習の時間の記録

特に顕著な活動がある場合に得点を与える。

各高校の選抜基準は毎年7月初めに
教育委員会 HP の高校入試情報に
アップされるよ。必ずチェックだ！



3. 1次選抜で調査書の得点はさらに膨れ上がる！

※2次選抜で膨らませる高校もある。

下の表を見ていただきたい。

- 第1次選抜（60%を入学許可候補者とする）
（各資料の配点）

①学力検査	②調査書	③その他	④合計
500点	335点	実施しない	835点

1の項目で紹介した選抜資料では「調査書の得点の満点は270点」だったはずだ。
しかし、1次選抜では調査書の得点が335点と明記されている。いわゆる調査書係数である。

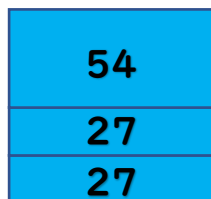
越谷北高校の場合、 $335 \text{ 点} \div 270 \text{ 点} = \text{約} 1.24 \text{ 倍}$

つまり、自分の内申点に1.24をかけ算すれば

1次選抜での自分の通知票による得点を求められることになる。

●調査書係数をかける前

【通知票27】



通知票合計得点
108点

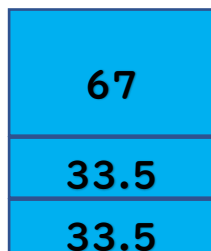
【通知票36】



通知票合計得点
144点

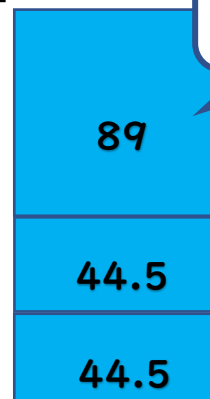
★★調査書係数をかけた後

【通知票27】



通知票合計得点
134点

【通知票36】



通知票合計得点
178点

36点だった得点差が**44点**に広がった！

4. 2次選抜では本番のテストの得点を重視!

●第2次選抜（40%を入学許可候補者とする）

（各資料の配点）

⑤学力検査	⑥調査書	⑦その他	⑧合計
500点	216点	実施しない	716点

逆に、2次選抜では調査書の得点が216点に圧縮されている。

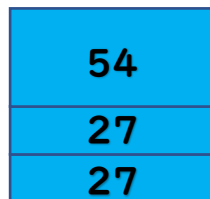
$216 \text{ 点} \div 270 \text{ 点} = 0.8 \text{ 倍}$

つまり、テスト重視・実力重視で選抜される。

もちろん高校によって違いがあるが、偏差値の高い高校ほど、その傾向が強い。

●調査書係数をかける前

【通知票27】



通知票合計得点
108点

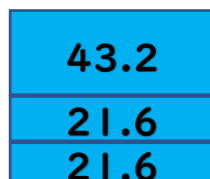
【通知票36】



通知票合計得点
144点

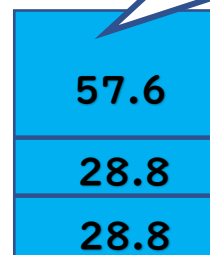
★★調査書係数をかけた後

【通知票27】



通知票合計得点
86点

【通知票36】



通知票合計得点
115点

36点だった得点差が**29点**に縮まった!

まとめ. 埼玉県公立高校入試は、みんなを見捨てない！

調査書の得点を重視しているのは、
主要5科目だけではなく、実技4科目も平等に評価するよ！
学校のテストや授業を地道にがんばってきた生徒は、それに報いますよ！というメッセージだし、

学習の記録の得点比率が中1～中3で 1：1：2 であるなど、中3の得点を大きくしているのは、
志望校なんて考えていなかったけれど、中3になって初めて行きたい高校ができた生徒に
今からでも遅くない！キミの気持ちに応えますよ！というメッセージだ。

2次選抜等で、調査書を圧縮し、テストの得点を重視しているのは
実技科目が苦手で通知票の合計が伸ばせなかった生徒も、
主要5科目をがんばって実力をつければ、キミのその努力も認めますよ！というメッセージ。

高校は、志願者全員のイスが用意されているわけではない。
合格・不合格通知がある以上、「競争である」というのは目を背けられない現実だ。

しかし、埼玉県入試は、みんなを見捨てない！
みんなの長所を存分に発揮して、長所を伸ばせる高校へ行けばよい。
時に鍛錬も必要だが、人生はつらく厳しい「修行」ではないのだから。

